

◎ 共生社会PRワーキング まとめ

障がいの理解 や 共生社会 に関する啓発・PRについて、  
子ども向けの周知活動の一つのアイデアとして、取り組みの方向性を検討するためのワーキングを実施。（R7.10.23）



地域・各事業所・区のそれぞれのPRの取り組みを効果的にむすぶ・つなぐには？

キーワード

自然に  
共に  
いっしょに

わかりやすく  
こどもや  
接点が少ない人にも

親しみやすく  
身近かな地域で  
ふらりと

自分ごとに  
わたしや  
わたしたちのことと感じられる

※ ワーキングでの共有内容（事例やアイデア・意見）を1～4の視点で整理

	アイデア・事例	1 効果・波及性・PR <div>① 地域課題解決への効果 ② 共生社会のPR効果、 ③ 他地域への展開可能性、話題性・広報性</div>	2 着手のしやすさ <div>① 準備期間・調整の難易度 ② 小規模試行の可否・短期的な実現性</div>	3 実現可能性・予算 <div>① 制度・法・地域資源との整合性 ② 必要経費の妥当性・予算対応</div>	4 作業負荷・持続性 <div>① 関係者の負担度合い、 ② 継続に必要な人員・時間、安定性 ③ リスク管理</div>
SNSの配信 ホームページ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ "障がい者への心づかいシリーズ"</li><li>・ 医療、飲食店や小売業など区民に身近な業種毎の発信。</li><li>・ デフリンピックの東京開催。 ⇒ 手話について SNS、ビュー坊テレビ、ライトアップ</li><li>・ 各所バラバラで行っているものをキャンペーンテーマを統一し連動させてはどうか？</li><li>・ 現場の当事者の「生の声」等、一緒に作る体制はどうか？</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ SNSは、受動的な情報。</li><li>・ ホームページにはたどりつきにくい。</li><li>・ ただ発信するだけでは効果薄い。</li><li>・ テーマの統一で目に留まりやすくする等の工夫が必要。</li><li>・ 職員目線ではない具体的な事例。 "生の声"でアクセス数、広報効果UP。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ リフレット等印刷と比べると 着手しやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 印刷、紙等の費用がかからない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 継続的なメンテナンスが必要。</li><li>・ 取り組みを連動させるには、 各機関の協力体制と組織化が鍵。</li><li>・ 各取り組みのリンクで、 過度な負担をかけず効果倍増の 可能性。</li></ul>
リーフレット等 作成	<ul style="list-style-type: none"><li>・ はたらく部会の取り組み。 ⇒ 企業向け障がい者雇用のPR。 公益活動げんき応援事業助成金の活用。 リーフ作成・DM郵送・セミナー。 実例に基づくポジティブな情報発信。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 内容等の工夫により話題性UP。</li><li>・ QRコード掲載でHPと連動できる。</li><li>・ 民間による作成 ⇒ 内容の自由度が比較的高い。</li><li>・ 区が作成 ⇒ 区の窓口や各機関で配布可能。</li><li>・ いろんなリーフがある中で どんな内容が必要で効果があるか吟味が必要。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 助成金は、任意団体等の地域の 小さな単位で活用できるものも。</li><li>・ 区が作成、印刷する場合は 一定の準備期間が必要。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 助成金等の活用可能性。</li><li>・ 区が作成、印刷する際も 予算確保は必要。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 助成金の受給後の報告が必要。</li><li>・ 一度、印刷されたものは、 その後の変更や追加等がしにくい。</li></ul>
実体験型 イベント	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「こころの健康フェスティバル」 中高生の吹奏楽やダンス、模擬店やゲーム等交流。 「地域交流展示会」 立ち寄る人の相談。</li><li>・ イベント内での当事者との交流や体験を。 ブースの例（車椅子・ゲーム）</li><li>・ 心理チェックを入れると自分ごととして興味を引きやすい。</li><li>・ 障がい者週間に図書館の企画特設コーナー</li><li>・ "読み聞かせ"などすでにある日常的なイベントの展開は？</li><li>・ 中高生には障がい施設の実習も理解促進につながる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 内容等の工夫による。 例）子育て世代をターゲットにした、 "絵本の読み語り" 区内の子育てサロン等の他、 大型商業施設などで開催すれば 話題性あり。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ すでに実施しているもののアレンジ ならば比較的实施しやすい。</li><li>・ 日常的なイベントやPRに 親和性の高いグループ等 にアプローチすることで小さく はじめて大きくしてはどうか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ すでに実施しているものの アレンジならば比較的成本低い。</li><li>・ 人的な投入は必要。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人と人が触れ合うイベント。 ⇒丁寧なフォローアップや、 内容のふりかえり、 見直しが継続的に必要。</li></ul>